

# まえがき

本報告書は、「教育情報表現インタフェースの効果的構成に関する研究開発」プロジェクト（平成9年～12年度）および、「デジタル情報テクノロジーの教育応用研究開発」プロジェクト（平成13年度～）の成果の一部をまとめたものである。

「教育情報表現インタフェースの効果的構成に関する研究開発」プロジェクトにおいては広範囲にわたる研究開発が行われたが、その一つである「教育情報表現インタフェースの心理的評価に関する研究」において、「ビデオマニュアル」を題材の一つとして取り上げた。メディア教育開発センターにおいては、その設立当初から、放送大学のテレビ番組を念頭においた、学習者にとって理解しやすい映像構成のための研究開発が行われてきたと言える。そのような長い歴史の中で、本研究において「ビデオマニュアル」を取り上げたのは以下のような経緯による。

まず、放送大学のテレビ番組を真正面から扱うことは、その対象が極めて複雑であるために、なかなか研究が進まないということである。放送大学の番組は1回が45分、全部で15回分というのを一単位と見なすべきであるが、これだけ長い時間から成立している映像の構成を分析するのは明らかに困難がある。過去の研究開発はこのような困難に果敢に立ち向かいそれなりの成果を上げているが、やはり限界があったことは否定できないであろう。根本的にアプローチの仕方を変えるべき時期に来ていたと言えよう。

本報告書の執筆者はいずれも認知心理学の訓練を受け、その観点から、マニュアル（取扱説明書）の研究開発を精力的に行ってきた。また、テレビ番組や映画などの映像表現に関する研究も行ってきた。このように同じ興味や経験を持った執筆者が集まって、ビデオマニュアルをターゲットとしたことはいわば自然の流れとも言える。

ビデオマニュアルは、企業が商品の一部として世に送り出しているものであり、さまざまな評価や吟味を経たものである。そして、その制作目的は明確であり時間も長いものでも数10分である。このことから、放送大学のテレビ番組よりはアプローチしやすい。むしろ我々執筆者としては、ビデオマニュアルについての研究開発で得られた知見を、たとえば放送大学の番組制作にあたっての演出技法に生かすことができる、そのための突破口になるという期待も持って取り組んできた。それでもこの報告書をまとめるために4年以上の月日を費やすことになってしまった。それだけ、映像構成という領域が奥深いものである、ということであろう。

本報告書の構成について若干説明を加えておく。我々の知る限り、ビデオマニュアルについての心理学的な研究は今回が初めてである。そこで、本報告書においては、基本的な問題としてビデオマニュアルの定義や分類の問題と必要性の問題とを最初の2つの章で扱うこととし

た。それらを受けて、研究の具体例を各自の観点からまとめた（第3章）。第4章では、ビデオマニュアル作成のためのガイドラインの開発について扱った。この章は、我々執筆者による座談会（2000.10.20 メディア教育開発センター）での録音記録に基づいて原稿を作成した。最後の資料では、今回扱ったビデオマニュアルの構成を分析した素データをあまねく公表することとした。このようなテープ起こしした時系列データは、学会発表などの限られた時間や文量の中で公表することは本来的に困難である。そこで、そのようなデータを公開し記録に残すという点で、本報告書の意義はあると言える。

さて、「教育情報表現インタフェースの効果的構成に関する研究開発」プロジェクトにおける研究開発の経験を踏まえ、我々は「デジタル情報テクノロジーの教育応用研究開発」プロジェクトにおいても研究開発を続行してきた。これらの成果の一部は、我々が企画者となり2つの学会でシンポジウムを企画してきたことに反映されている。すなわち、日本教育心理学会第43回総会（2001年9月 名古屋国際会議場）における自主シンポジウム「説明へのアプローチ：説明のデザインとメディア」と、日本心理学会第65回大会（2001年11月 つくば国際会議場）におけるシンポジウム「説明研究の展開－取扱説明から考える－」とである。この2つのシンポジウムの記録報告書も現在作成中である。

最後に、本報告書を作成するに当たり、次の方々にご協力をいただきました。ここに記して感謝の意を表したいと思います。筑波大学心理学系教授・海保博之先生には、研究開発の初めの段階から折に触れ、ご相談にのっていただきましたし、日本テクニカルコミュニケーター協会シンポジウムでの発表の機会を与えていただきました。日本イーライリリー株式会社殿には、取扱説明ビデオテープをご提供いただくと同時に研究開発用にその映像を使用する許可をいただきました。ノボノルディスクファーマ株式会社殿には、取扱説明ビデオテープを研究開発に使用する許可をいただきました。日本テクニカルコミュニケーター協会には、取扱説明ビデオテープを収集する際にご協力をいただきました。メディア教育開発センター事務補佐員の藤田弓子さんには、座談会の録音記録の書き起こしを作っていただきました。

2002年1月

高橋秀明